

アプローチカリキュラム 公開研修会

平成30年2月13日
千葉市 幕張第二保育所

カリキュラムコーディネーター
千葉大学教育学部教授 松寄洋子氏

保育目標

保育目標

- 生き生きと遊ぶ子どもを育てる

具体目標

- 意欲のある子
- 身体の丈夫な子
- 考える子

保育方針

- 子どもが自発的、意欲的に関われるような環境に留意し、子どもが主体的に活動できるように援助していく。
- いろいろな人間関係の中で、自ら学び考える力や、生きる力を育てていく。
- 保護者といろいろな職種の職員が連携し、子どもの成長や子育ての喜びを共有していく。

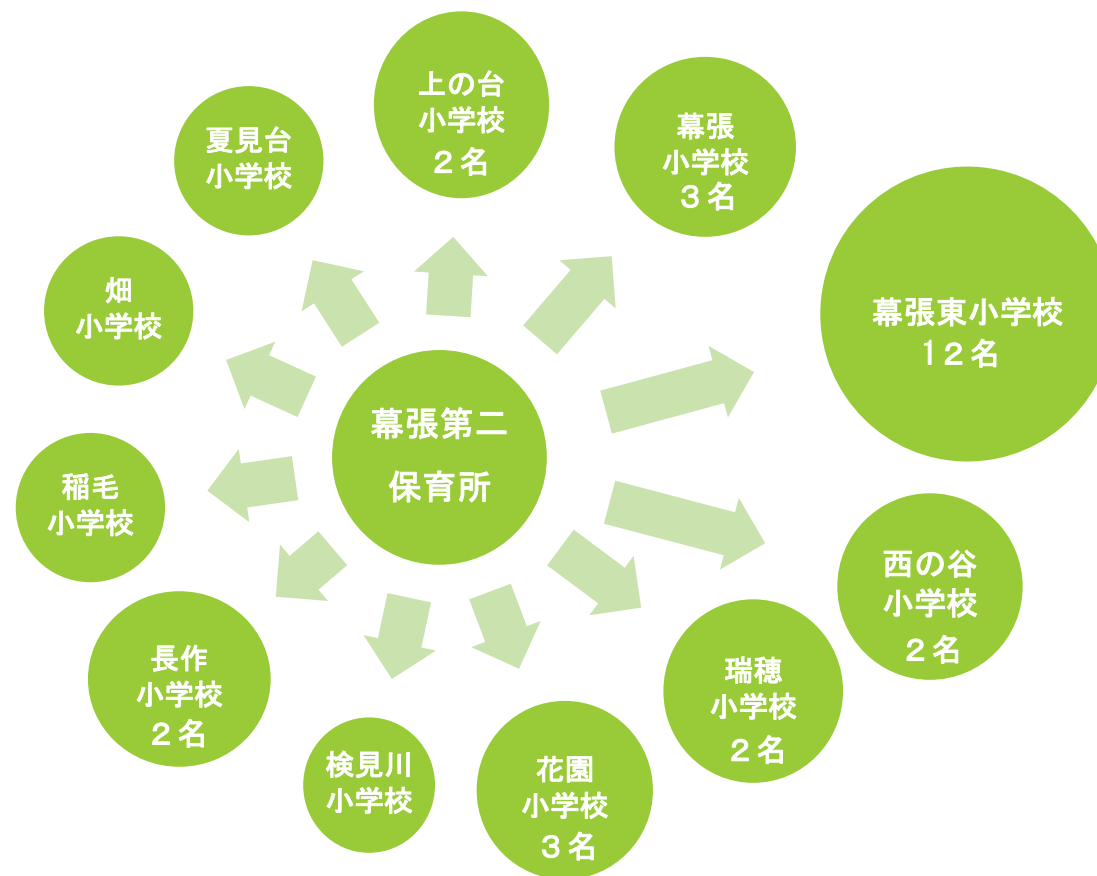
クラス編成

クラス名	ひよこ組	りす組	うさぎ組	ぞう組	きりん組	ぱんだ組	くま組	合計
0歳児	1 1							1 1
1歳児		2 0	7					2 7
2歳児			2 0					2 0
3歳児				4	7	7	8	2 6
4歳児				1 0	9	8	8	3 5
5歳児				7	8	8	7	3 0
人数（内障）	1 1	2 0	2 7	2 1	2 4（1）	2 3	2 3（2）	1 4 9
担任数	4	4	5	1	2	1	2	

年長児30名の紹介



年長児30名の就学予定先



小学校との交流

～子どもにとってどのような連携をとることが大切かを考える～

昨年度までの小学校との交流

子どもの交流

- 1年生活科授業へ参加
- 2年町探検で来所
- 津波の避難訓練

職員の交流

- 児童要録の送付
- 就学予定児童の引継ぎ
- 学校評議員

小学校との交流の見直し①

散歩時の訪問

- ・ 年長児に限らず、散歩の行先に小学校の校庭を設定させてもらい、繰り返し訪れることで、子ども達が小学校を身近に感じられるようにする。(事前に小学校に連絡し、了解を得る)



小学校との交流の見直し②

おたより交換

保育所の「月のおたより」
小学校の「学校だより」「学年
だより(1年生)」を交換する。

子ども達にも見える高さに掲示
し、保護者と一緒に見てもらっ
ことで、小学校の様子や行事予
定を知ってもらう。



↑ 学校だより



↑ 学年だより



← 保育所だより

小学校との交流の見直し③

小学校教員との意見交換（7月 幕張東小学校）

- 子どもの交流活動について
- 就学までに身につけてほしいことについて
- 年長児懇談会資料の内容について
- 小学校教員と保育所職員の交流について

アプローチカリキュラムの作成

3歳以上児クラス指導計画の見直し

3歳以上児クラスの編成について

3歳以上児クラスは、
生活の根拠であるクラスは3・4・5歳児混合の
クラス編成をしており（縦割り保育）
指導計画の中で必要に応じて
同学年の活動を組み込んでいる。

縦割り保育のメリット・デメリット

メリット

- 年下児は年上児の遊びや生活の場面を見て、遊び方やルールの守り方を知ることができる。
- 年上児は年下児に遊びや生活のやり方やルールを教えることで、技術が身についたり、思いやりの気持ちや自己肯定感が育まれる。
- 学年を超えて、それぞれの発達に合った遊び仲間を見つけることができる。

デメリット

- 3・4・5歳児が同じ部屋で過ごすため、3歳児にも安全な環境設定になる。
→ 5歳児の遊びに必要な用具、遊具が自分で取ることができない。主体的に選び取ることができないのではないか。
- 5歳児の遊びに年下児が入り、遊びの発展が中途半端になっていることもあるのではないか。
- 年下児がいることで、手伝いなど負担になっているところや、逆に保育者が手を貸しすぎているところがあるのではないか。

指導計画の見直しについて

- 縦割り保育の実践を通して見えてきた課題を明らかにし、立案や実践に生かす。
- 縦割り保育における指導計画の在り方について検討する。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた内容に見直す。

年間指導計画（年齢別）

- ▶ 保育課程の「保育目標」や「保育内容」を基本に千葉市の「ほいく」を参考に作成する
- ▶ 個々と集団がどのように育ててほしいかを記載する

1期（4～5月）

- ・ 新しい環境に慣れ同年齢や年下の友達と関わる中で、相手のことを思いやりながら生活すること
- ・ 基本的な生活習慣をもう一度確認すること

2期（6～8月）

- ・ 保育者や友達と関係ができてきた中で、様々な発想で遊びを広げていく楽しさを感じられること
- ・ 生活や遊びを進めていくうえで必要なルールを自分たちで考え、守る

3期（9～12月）

- ・ 年長児全員で話し合い取り組むこと
- ・ 協力し合い遊びに取り組むこと
- ・ 物語を楽しんだり文字で遊ぶこと
- ・ 小学校生活に対し関心を持てるようにすること

4期（1～3月）

- ・ 友達とのかかわりをさらに深めながら目標に向かって友達と協力して取り組むこと
- ・ これまでの保育所生活を振り返り、生活習慣や態度など身につけてきたことを認め自信をもって生活すること

9月までの指導計画

* 資料参照

- ▶ 縦割り保育を実施しているため、3・4・5歳児共通の月案となっている
- ▶ 年間指導計画の内容を踏まえ、縦割り保育の中で5歳児にどのように配慮をし、保育を進めていくかを記載する
- ▶ ねらい … 年齢別に設定する
- ▶ 内容、環境構成 … 3・4・5歳児共通
- ▶ 保育者の配慮及び援助 … 年齢別に記入する

9月までの指導計画の問題点

～個別支援の中から見えてきたこと～

- この指導計画では「保育者の援助・配慮」が年齢別で記載されており「保育者主導の指導案」となっている
- 子どもたちにどのように育ててほしいのかという視点がない。たとえば活動が同じであったとしても、年齢別にどんな経験をしてほしいのか、学んでほしいのかを考えておく必要があるのではないか。
- 保育者の配慮は本当に年齢別に必要なのか。個別配慮ではないか。環境構成と混同していないか。
- 「保育者の援助・配慮」の視点で小学校接続を考えると難しいが、子どもの姿の視点で考えるともっと様々な取り組みが考えられるのではないか。
- アプローチの視点を入れ込むためには、年長としての活動と、縦割りとしての活動を分けて整理したほうがよいのではないか。

10月からの指導計画

* 10月指導計画参照

- 前月の子どもの姿の項目を入れ、各年齢の子どもの姿をきちんと振り返ることを、改めて意識できるようにした。
- 内容や環境設定は年齢別に記載し、これまで個々に配慮していたことを、「学年」で意識できるようにした。
- 予想される子どもの姿の欄に「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」のどこが当てはまるかア・イ・ウの記号を入れ、保育の中で意識できるようにする。
- 小学校や地域との連携欄や年長児保護者との連携欄を設け、連携を意識できるようにする。

10月指導計画を立案しての考察

- 年齢ごとに記載したことで、同じ活動でも何にねらいを持っているのかがわかり、どのように援助をしたらよいか考えて保育をするようになった。
- ねらいを達成させるための「環境設定」を記載することにより（あえて活動内容を記載しない）、まずは子ども達のやりたいことがあって、それに対して保育者が環境構成をするという考え方に合わせた記載ができたのではないか。
- これまでは「環境設定」や「援助・配慮」が、様々な活動に重複して関わっていると考え、あえて欄にこだわらなかったが、各欄の対応する記述を横にそろえることで、何を意識すればよいのか明確になった。
- 10の姿を当てはめることにより、保育者が意識して働きかけるようになった。

12月からの指導計画

- 経験の浅い保育士では「ねらい」から「環境構成」を考えるのは難しい様子が見られた。



- だが「活動」を記載することで「この活動をしなくてはいけない」「この活動さえすればよい」という考えになってしまうのではないか。



- しかし「活動」を示さないと「環境構成」や「予想される子どもの姿」がイメージしづらいようなので「活動内容」欄を入れることにする。（2月からは「主な活動」）

実践例の紹介

1. 小学校の掃除見学
2. レストランごっこ～郵便局見学

1. 小学校の掃除見学

10～11月

10月 食後の掃除を始めたよ

食事の際
食べこぼしが
多い

- 自分達で掃除をしてはどうだろう
- 雑巾とちりとりの準備

保育士が
小学校の
授業参観へ

- 小学生も掃除をしていることを年長児に話す

小学生の掃除の仕方を見せてもらおう！

→すぐに小学校へ連絡

1年生の掃除見学

こんなところに気づきました

- ・ 椅子や机の運び方
- ・ 自在ぼうきの使い方
- ・ 雑巾の使い方
- ・ 掃いてから拭くこと
- ・ クレンザーで汚れを落とすこと
- ・ 6年生が手伝いをしてくれること
- ・ 始めと終わりに挨拶をすること



掃除見学 そのあと…

子ども達は…

- ・小学生に憧れを持つようになった
- ・後ろへ下がりがりながら雑巾がけをするようになる
- ・椅子や机を1年生と同じように運ぼうとする

保育士は…

- ・これまでの交流の経験から、保育所側から発信してみようという意識を持つことができた
- ・窓口となる先生が分かっていることで、安心して連絡を取ることができた



11月の指導計画

【環境設定】

食後の片づけが自分達でできるよう掃除用具（小ぼうき、ちりとり、雑巾、バケツ）を用意しておく。

【予想される子どもの姿】

自分達の食べこぼしに気づき食事の仕方について見直し、マナーに気をつけて食べようとする。



小学校の掃除見学 考察

- 11月のカリキュラムでは「ア.健康な心と体」「エ.道徳性、規範意識の芽生え」が育つのではと考えていたが、小学校の掃除見学に行ったことで、さらに「イ.自立心」や「オ.社会生活との関わり」も育ったのではないかと考えられる。
- これまでに、校舎内や校庭の見学で小学校との連携が取れていたことから、子どもたちの声をすぐに実践につなげることができ、学びを広げることができた。
- これまで、無意識のうちに小学校側に依存していたのではないか。保育所側も目的を持ち、自分達から関わっていく必要があるのではないか。そうすることで子ども達も主体的に小学校に関わることができる。

つぎは給食も見たい！

給食の時間は時間帯が重なり
子ども達が見学することは
困難である



保育士が給食時間に小学校を
訪問し、写真撮影をする



写真を掲示して年長児に給食
の様子を知らせる



2. レストランごっこ～郵便ごっこ

12月～1月

レストランに招待しよう

12月のおたのしみ週間に、いちご帽子（年少児）とぶどう帽子（年中児）と先生たちを招待して、レストランごっこをしよう。



招待するなら「招待状」が必要だね。



招待状を書いて渡そう。



とても喜んでくれた！



郵便局 保育所支店開局

文字で思っていることを伝えたいと思い始めたようだ。



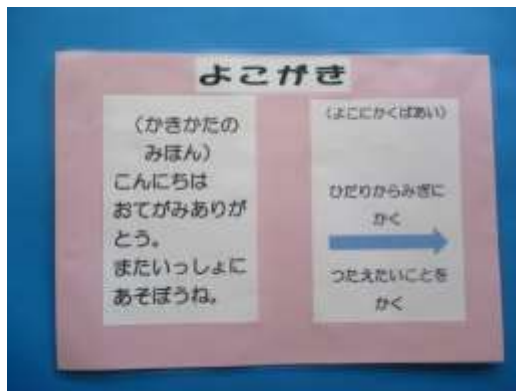
さりげなく郵便ごっこセットを見えるところに置いてみる。



すぐに興味を示し、早速お手紙を書き始める。



ポストに手紙を入れたけど配達ってどうするの？



郵便ってどうして届くの？

幕張北口郵便局へ行く。



局員の方に質問に答えてもらったり、ポストを観察してくる。



- 郵便局保育所支店の配達時間や配達当番を決める。
- 郵便局で知ったことを年下児にも教える。



12月の指導計画

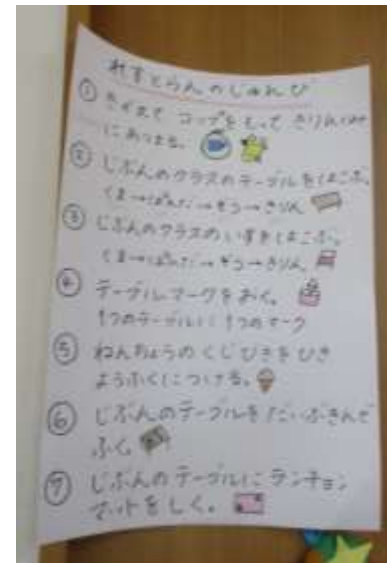
【環境設定】

レストランのイメージがしやすいような絵本やカードを子ども達の見えるところに準備しておく。様々な材料や用具をそろえておく。

【予想される子どもの姿】

遊びに必要なものを友達と話し合い、いろいろな材料や用具を使って工夫して制作する。

役割分担、係の内容について話し合う。シミュレーションしてイメージをつかもうとする。



レストランごっこ～郵便ごっこ 考察

- その活動で何を育てたいか、年長児にどのように育ててほしいか、という「ねらい」がわかっていたので、保育者の思いとは違った方向に進んだり、予想を超えた姿を子どもが見せても、子どもの思いを止めることなく、ねらいに沿って柔軟に環境の再構成をしていくことができた。
- 郵便局に行くことで、保育所の中だけでは得られないものを学ぶことができた。保育者が質問に答えることは簡単だが、こうして社会の中にでて、自分達で答えを得る経験は小学校での学びにつながるのではと考える。

保護者支援

アプローチカリキュラムとして意識したこと

年長児保護者懇談会を通して

【6月懇談会】

就学までに身につけておくことよいものをおたよりにまとめ、見通しをもって子どもに関われるようにする。

【1月懇談会】

就学を直前に控え気づいたことについて親同士で話す。（例えば携帯を持たせるか、給食はいつから始まるのか等）



アプローチカリキュラム作成に 取り組んで

職員の学び

- ひとつの活動に対して「〇〇が育まれる」と思い込んでいたが、10の姿があることで、違う視点やアプローチの仕方を考えることができた。
- 10の姿が示されたことにより視点が広がり、時計の示し方一つも変わった。
- アプローチカリキュラムを立案することで、保育の中で視点の置き方が変わった。
- これまで指導計画を作成する際、一般的な年齢の指導計画を参考にすることがあったが、目の前の子どもの姿を見て考えられるようになった。
- 指導計画に10の姿を当てはめたら、どの部分が足りないのか分かり、意識して保育に入れられないか考えるようになった。
- 保育者が年長児の活動を意識するようになったら、自然と3・4歳児も年長児の活動に興味を持ち、真似をするようになった。
- 小学校側にも窓口になってくださる方ができ、連絡が取りやすくなったので、交流回数が増えた。

保護者の感想

- 小学校へ出かける日は、朝からワクワクしている様子だった。
- 小学校へ遊びに行くと報告があったり、壁新聞の写真を見ながら熱心に説明をしてくれた。
- 就学が近くなり、もっと不安そうな様子を見せると思ったが、本人はとても楽しみにしているようだ。
- 就学前健診へ行く前に、小学校校舎見学や校庭見学を経験していたため、不安なく行くことができたようだ（障害のあるお子さんの親）
- 我が子の就学先の小学校へ、交流活動で行く機会がなかったのは、残念だった。

現在の取り組み

- 3・4歳児の内容も見直し、10の姿を当てはめ、どの部分が足りないのか把握している。
- 「指導計画立案のプロセス」を同じにするため、0～2歳児の指導計画も書式を見直した。
- 3歳未満児クラスの指導計画は、クラス毎ではなく年齢毎に切り替えた。
- 指導計画を立案する際は、年齢担当と総括主任が話し合いながら行う。
- 保育をしながら「今、10の姿の言葉による伝え合いが育ってる」と声に出して言う。

今後の課題

- 今年度同様 来年度も積極的に小学校と交流を進めていくこと。
- 年長児の就学先全てと何らかの形で関わりを持てるようにする。
- 入学後 1年生の授業を参観させていただき、様子を把握し、来年度のアプローチカリキュラムの改善につなげる。
- 5月頃までの時期に、小学校と入学したお子さんの様子を情報交換したり、交流の際の窓口となる先生と顔合わせをするために、職員同士の意見交換の場を設けたい。
- 全体の計画や年間指導計画も幼児期の終わりまでに育てたい姿を踏まえた内容に見直す。

おわりに

